

温熱療法

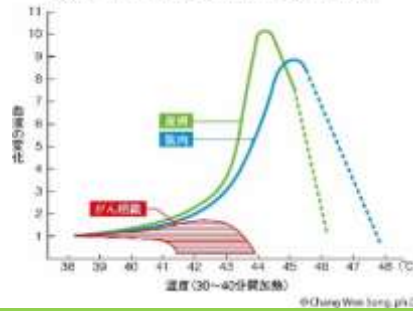
-Hyperthermia-

【あきらめない！がん治療】

温熱療法はがんに効きますか？

電磁波を用いて患部を **42.5℃程度** まで加温し、**がん組織のみを死滅させる治療**です。加温後、正常組織は血管が拡張し血流により冷やされますが、がん組織は周辺の血管が脆く、拡張せずに熱がこもります。そのため、がん組織のみに殺細胞効果があります。

種々の温度に加温した場合の
正常組織(血管・筋肉)とがん組織の血流の変化



どのように加温しますか？

うつ伏せ、または仰向けになり**腫瘍がある患部を2つの電極で挟みます**。電極と体の間に隙間ができると加温部位に熱感・ヒリヒリ感が出てしまうため、ゼリーを塗る場合があります。そのため、加温部位によっては服を脱いだ状態で治療を行います。治療時間は 50 分程度で同じ体勢で加温を行うため、なるべく楽に治療できるようにサポートします。

加温中の痛みは我慢したほうがいいですか？

加温すると局所が熱くなり、その後全身が熱くなります。ただし、一点に痛みが集中する場合は火傷や脂肪の部分が固くなる等のリスクが高まるため、我慢せずにお声掛けください。電極や体の配置を適宜調整します。

対象者について

眼、脳および血液がん以外のすべてのがんの方、加温中に意思表示が可能な方、ペースメーカーを埋入していない方、加温部に体内金属が埋入されていない方。根治治療はもちろん、病期が進行中の方で緩和治療を希望される方も温熱療法の適応となります。

温熱療法のタイミングは？

放射線治療併用の場合は**放射線治療直後**に、化学療法併用の場合は**化学療法前後の 1 日以内**に治療を行います。また、加温後 3 日程度はがん細胞が熱に対して耐性を持つため、**週に1～2回**で予定を組みます(1連の治療で最大 4～8 回)。



【治療効果に切れ味を求めて】

当院では2022年4月より温熱療法を導入しました。この温熱療法は保険診療が認められており、がん治療の3本柱である手術・化学療法・放射線治療と併用することで治療の上乗せ効果が可能です。また、他治療に比べ比較的副作用が少ないため近年大変注目されています。

中央放射線部放射線治療センターでは、医師・看護師・診療放射線技師が連携し、患者さんに安心して温熱療法を受けていただけるよう、全力でサポートしていきます。がんと闘う皆さんの選択肢の1つに加えていただければと思います。



ご不明・ご心配なことは診療放射線技師にお尋ねください。
中央放射線部ホームページも是非ご覧ください →→→→→
<https://aichi-med-u-radio.com>

